

## 金融ブラックホールを保護し養育する？

【訳者注】訳者の知る限り、これは ICH で最も高いコメントの点数を得た論文である。確かに、わずかの貪欲な国際巨大銀行家のもとに世界の富が集中する事実を、すべてを吸収する貪欲なブラックホールに喩えるのは、比喩とも現実とも言えて、見事である。それは極めて愚かなブラックホールだとも言う。我々は、この矛盾した、究極の資本主義と権力構造の恐ろしさと愚かさを、漠然とは理解していたが、この比喩による現実分析によって、初めて明瞭に理解できたのではなかろうか？

これを書いている現在、ギリシャの国民投票が進行中だが、この大きな決断の究極の意味もこれによってわかる。つまりそれは「金融ブラックホール」の破綻を知りながら、あくまでそれに乗って解決する方向を取るか、決然と「紐を切って」別の方向を目指すかの選択である。

By Dmitry Orlov

June 30, 2015 (Information Clearing House)

つい最近、私はセルゲイ・グラツィエフ——経済学者、政治家、科学アカデミー会員、プーチン大統領のアドバイザー——の講演を聞く榮譽を得て、私自身の考えに大いに自信をもつことができた。彼が言うには、誰でも数学のわかる者なら、アメリカはその負債が指数関数的に膨れ上がり、崩壊寸前であることがわかるはずだということだった。これは、アメリカやヨーロッパの政治家が公然とは口にできないことで、多分、ベッドの中で愛する相手にさえ言えないことである。なぜなら聞き耳を立てるアメリカ人がいるかもしれず、そうならこの問題の政治家は、ドミニク・ストロース＝カーンの扱いを受けるだろう [注：この輝かしい功績をもつ政治家は、アメリカを訪問したさい、虚偽の強姦の疑いをかけられ逮捕された]。そういうわけで、いかなるヨーロッパ（アメリカはもちろんのこと）の政治家も、それがいかに自明でも、この自明のことを口にすることはできない。

ロシア人たちはすでに、このことをかなりよく理解している。確かにヨーロッパ人たちと対話を続け、思いやりの指示をしてやることは重要である。しかしヨーロッパ人たちが、自分自身の意志も決断する権威も持たない、一群のアメリカの傀儡だということは、みな知っている。ではなぜ直接アメリカ人に話さないのか？ 残念ながらアメリカ人もまた傀儡である。アメリカの高官や政治家たちは間違いなく傀儡で、企業ロビイストと蔭の寡頭政治家に操作されている。しかしここにショッキングな事実がある——これらの者たちもまた傀儡で

あり、前者は利益、後者は富の保存という、単純な命令に支配されている。実はずっと下まで傀儡なのであり、その根元にあるのは、巨大な、どこまでも膨張する、金融ブラックホールである。

あなたは自分のブラックホールが好きですか？ 好きかどうか分からないというなら、別の質問をさせていただこう——あなたは、自分のクレジット・カードがまだ機能しているとか、まだ銀行にお金を預けることができ、ATM 機械から現金を取り出すこともできるとか、あるいは、年金を受け取っており、最後まで受け取れるはずだという事実が、気に入っているだろうか？ あなたは役に立つもの——食料、ガス、飛行機のチケットなど——を、死んだ白人の肖像が描かれている単なる紙切れで手に入手できるという事実が、気に入っているだろうか？ インターネットが使える、電気が通っていて、水道が使えるという事実が気に入っているだろうか？ まあそういったことが結構なことだと言うなら、あなたは金融ブラックホールもまた気に入っているはずだ。なぜなら、それこそが、たとえあなたの国が破産しても、こういったことすべてを可能にしてくれるものだからである。多分それは愛憎関係といってよいだろう。あなたは、そうでないと知りながら、すべてがまだうまく行っているようなふりができることを、愛している。あなたは、そのすべてが崩壊する前に、たとえば数日だろうと1, 2年だろうと、平常通りのビジネスがもう少し続いてほしいと思っている。しかし最後には、このブラックホールがあなたを吸い込み、そのあと物事が完全に吸い込まれるという事実を、あなたは見たくないと思っている。

アメリカではこれまでのところ、このブラックホールは、個々の家族を吸い込んでいる（もっともそれは、ミシガン州、デトロイト、カリフォルニア州、ベイカーズフィールド、ニュージャージー州、カムデンのように都市全体を吸い込むこともある）。詐欺的な抵当騒ぎの助けを借りて、それは家屋を吸い込み、それを不良債権という厄介物と共に再び吐き出す。医療産業の助けを借りて、それは病人を吸い込み、彼らを破産させて再び吐き出す。高等教育騒ぎの助けを借りて、それは有望な若者を吸い込み、役に立たぬ学位と山のような学生債務とともに、卒業生として吐き戻す。軍産複合企業の助けを借りて、それは何でも、ほとんどすべてのものを吸い込み、死骸、傷病人、環境破壊、テロリスト、それに地球的不安定事情を吐き出す、等々。

しかし、このブラックホールはまた、国家そのものを呑み込むこともある。現在のところ、それはギリシャを呑み込もうとして、困難にぶつかっている。なぜならギリシャは、何よりも民主国家だからである。現在それは、ブラックホールの傀儡たちをやきもきさせ、彼らはギリシャでの“政権交替”を要求し始めた。それは、このブラックホールが腹をすかさ前に、ギリシャが条件降伏できるようにするためである。

このブラックホールが国家全体を呑みこむ方法は、次のようである。もしブラックホールが一定の期間、そこから吸い込むものが十分になければ、それは貪欲さを発揮して、その金融市場を自由落下状態に陥らせる。ブラックホールからより離れた国家ほど、つまり周縁にあるほど、その金融機関は落下が早くなる。“安全な場所”を求めて、カネはこれらの国から流れ出し、このブラックホールの周囲にしっかり群がる“中核”国家——アメリカ、ドイツ、日本、その他のわずかの国——に流れ込む。ブラックホールはこのカネを呑み込むが、もっと多くのカネが欲しくなる。しかし周縁国は今や、財政的に弱すぎて抵抗できないので、たやすくブラックホールの餌食になってしまう。このものは決して返済できない外国債でその外国を縛り、この借金に戦って返済を継続させ、それを条件に、金融的なライフライン——銀行を開いておき、ATMを機能させ、電気を切らないことなど——を約束する。支払いができるためには、その国は、緊縮政策を課することによって、その社会と経済を崩壊させねばならず、また目に入るすべてを私有化して、さらなるローンの抵当にすることを強いられ、そしてIMFやECBのような何らかの超国家的組織に、その主権を手渡すことを強いられる。この2つの機関は、ブラックホールの面倒を見て食べさせることに直接かかわっている。

こうしたことすべての責任者は誰だ？——とあなたは訊ねるだろう。もしそこにあるすべてが、その世話と養育を背負わされた傀儡たち、またその不幸な犠牲者たちも含めて、すべてがブラックホールだとしたら、では誰が意思決定をするのか？　そこで忘れてならないのは、このブラックホールは生き物だということである。しかしそれは、ごくごく愚かな生き物である。それが自分の意志を押し付ける方法は、その傀儡たちの考える力を破壊することによって、彼らがあることを理解できなくすることである。しかし愚かさは両刃の剣であり、このようなやり方で自分の意志を押しつければ、このブラックホールは、自分自身の目的をも挫くことになる。

例えば少し前、このブラックホールは、吸い込もうとして、それができなかった、かなり大きな対象に遭遇したことがある。それはロシア連邦と呼ばれ、このものは、ブラックホールが、ローンの抵当として欲しがり、吸い込みたがっている、あらゆる天然資源の豊富な広大な領土を支配している。問題はそこにロシア人がいっぱいいること、そして彼らは、ブラックホールの傀儡たちが取引するには難しい人たちだということだ。彼らはこの傀儡たちに、その赤い線からこちら側に入らないようにしてほしい、もしそういうことをすると、我々の銃の安全装置が問答無用ではずされることになる、と言いつけている。

この状況には交渉が要求される。しかし先に言ったように、このごくごく愚かなブラックホールは、たった一つの交渉戦略しかもっていない——それは自分の要求を突きつけ、相手方が降伏するのを待つだけである。もしそれがうまく行かないと、それは圧力をかける。すな

わち制裁を課し、通貨を攻撃し、金融取引を複雑化し、この国の海外資産を差し押さえる、等々——そして相手方が降伏するのを待つ。そして、もしそれもうまくいかなければ、この国は NATO によって、あるいは NATO が一緒に行動するのを嫌がれば、アメリカ単独で爆撃され、瓦礫にされる。そのやり方は通常は効き目がある。しかしロシアの場合にはそうはいかない。しかしブラックホールは、何度も言うが、すこぶる付きの馬鹿なので、とにかくそれをやり続ける。そうしているうちに、傀儡たちの頭は本当におかしくなり、いったい何が起きているのか理解できなくなってしまう。

例えば、ロシアにプレッシャーをかけても効き目がないことは、今では誰でも知っている。ニュートンの第三法則によると、すべての作用は等しい反作用を産み出す。ロシアは十分に大きいので、これを押しても全く動こうせず、それを押している者に自分を傷つけさせるだけである。それは、膝を揃えて椅子から飛び退くことによって、地球の軌道を変えようとするようなもので、もしあなたが医者に見てもらおうと思っているなら、それはよい策略だ。実際ロシア人は、むしろ制裁を有難がっている。なぜなら、彼らはずいぶん今、国内の経済的発展と自給自足に投資することを真剣に考える、よい理由を与えられたからである。しかし傀儡たちは、ブラックボックスによって頭をおかしくされているので、それがわからず、ただひたすら押し続け、その過程で彼ら自身の経済に打撃を与えている。

制裁に効き目がなければ、今度は軍事的オプションを取ることになる。そうするためには戦争の理由をつくり出さねばならない。このブラックボックスは、幻想を見せることでそれをやってのける——ロシアがクリミアを侵略した！と。確かに——だがそれは数百年前であり、それ以来その状態のままで、最近では国際的合意に基づいている。しかし、そんなことが何だ！（おお、そう言えば、法的には、クリミアは決してウクライナの一部になっていない——ニキタ・フルシチョフがこれを譲渡したときに、書類作成が不備だったからだ。）OK、そんなことが何だ、とにかくロシアはウクライナを侵略しているのだ！ 毎日だ。だがロシアのやり方はずるくて、誰かがロシア軍がそこにいる写真を撮ろうとすると、さっと引っ込むのだ。OK、それもどうでもいい。とにかくロシアは、エストニア、ラトビア、リトアニア、そして多分ポーランドを、侵略する構えでいるのだ。——どうやって侵略するの？ ユルマーラ（ラトビアの観光地）の音楽祭に、バスに乗って押しかけるみたいにか？ まあ、そこまで行ったとしよう。でも音楽祭はすでに終わっていて、侵略家音楽ファンたちはもう帰宅してるよ。——OK、それもどうでもどうでもいい。だが傀儡たちは、何度も繰り返して“ロシアの侵略”を言い続けているのではないか！——それは、ブラックホールに近すぎるところにいることから生ずる脳障害だよ。例えば、この男を見てごらん。彼は下あごをパクパクさせて「ロシアの侵略だ！ロシアの侵略だ！」と叫び続けながら、想像上のペットの牛の尻を撫でまわして自己満足しようとしている——憐れにも。



現実世界へ戻るとしよう。憐れな傀儡たちは、話がロシアということになれば、軍事的なオプションはないということが理解できないでいる。ロシアは優れた戦略的抑止力をもつ核保有国で、防備は完全だが、誰に対しても侵略の意図はもっていない。しかし傀儡たちは、頭がおかしくなって、それが見えず、ロシア国境沿いにいろんな種類の旧式の兵器を並べ、完全に古くなったパーシング中距離核ミサイルを、ヨーロッパに持ち込むと脅してさえいる。それらが時代遅れである理由は、ロシアは今、それらをことごとく撃ち落とせる S-300 システムをもっているからである。軍事的オプションは全く無意味である。しかしそれを傀儡たちに言わない方がいい——彼らはさらに脳に障害を受けることなしには、そのような情報を吸収することができない。

ギリシャへ戻ることしよう。ごく小さなギリシャは確かに強力なロシアとは違うが、それにもかかわらず、それはブラックホールの要求に降伏することを拒否した。それは、IMF と ECB から金融ライフラインを受けること条件として、その社会と経済を完全に難破させるよう求められた。ブラックホールとその傀儡たちにとって大変都合の悪いことに、ギリシャは、あなたが娘を結婚させたいとは思わないような黒い肌の人々の、名も知れない“第三世界”ではなく、ヨーロッパの文明と民主主義の発祥地となったヨーロッパ国家である。ギリシャは、誠実に交渉しようとした政府を選んだのだが、傀儡たちは交渉せず——ただ要求し、脅迫し、彼らが我意を通すまで、それとも彼らの頭が爆発するまで、ダメージを与えている。

この件は目の離せない興味深いものになる。もし、このブラックホールがギリシャを吸い込むのに成功したら、次はどの国になるだろう？ イタリアだろうか、スペインだろうか、それともポルトガルか？ そして、そのようなプロセスが続くとしたら、どの時点で、十分多くの人々が、もうこんなことは十分だと言うだろうか？ なぜなら、人々がそう言い出したとき、ブラックホールは萎むはずだからである。それは、信じられないほどの密度の物質でできていて、その重力場が光さえも吸収してしまう、本当のブラックホールではない。それはあらゆる人間の貪欲の結合でできた、ニセのブラックホールである。それはその核心に貪欲さを持ち、周囲を恐怖で取り巻き、その恐怖を食べて生きている。もしそのものが人々、家族、国全体を吸い込み続けることができれば、その中心にある貪欲を生かし続けることが

できるが、それができなければ、その食欲もまた恐怖に変わり、委縮して死んでしまうだろう。そして願わくは、それが死ぬとき、頭脳に障害を受けた傀儡たちすべてが、つながっていた紐が切れて、自分たちがどれだけ騙されていたかを悟ってほしい。そして何か有益なことを見つけてほしい——羊を飼うとか、野菜を育てるとか、潮干狩りをするとか…。

(ドミートリ・オルロフについては、5/17「アメリカのアキレス腱」を見よ。)